

## 11 月 の 都 内 経 済 状 況







営業開発部

項目	天気図	コメメント
現在の景気動向		11月の都内の景気は、一部に弱い動きも見られるが、緩やかに回復している。百貨店の売上は減少し、スーパーの売上は横這い、コンビニエンスストアの売上は増加した。乗用車販売は2ヵ月ぶりに前年を上回った。住宅着工は3ヵ月連続で、公共投資は6ヵ月連続で増加した。輸出は2ヵ月ぶりに前年を上回った。有効求人倍率は3ヵ月ぶりに低下した。工業生産(10月)は2ヵ月連続で前月から減少した。28年度下期の設備投資は増加見込みだが、同期の経常利益は減益見込みとなっている(法人企業)。
今後の見通し(3ヵ月)		都内の景気は一部に弱い動きも見られるが、引き続き緩やかな回復が期待される。新興国の景気下振れや金融資本市場の変動、アメリカの政策動向、イギリスのEU離脱決定の影響などが今後のリスク要因となっている。
個人消費費	百貨店売上高 	百貨店売上高は、前年同月比▲2.0%と4ヵ月連続で前年を下回った(既存店ベース)。主要5品目のうち食料品は4ヵ月ぶりに前年を上回ったが、衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品はいずれも前年を下回った。化粧品は増加基調を維持したが、美術・宝飾・貴金属は減少が続いている。
	スーパー売上高 	スーパーの売上高は、前年同月比横這いにとどまった(既存店ベース)。衣料品は不振だったが、主力の食料品が農産品の相場高もあって堅調に推移した。
	コンビニ売上(関東) 	関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比2.8%増と45ヵ月連続で前年を上回った(全店ベース)。淹れたてコーヒーなどのカウンター商材や総菜、麺類等が好調に推移したと見られる。
	乗用車登録台数 	乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比7.7%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別では、普通車(同8.8%増)は4ヵ月連続で、小型車(同16.6%増)は3ヵ月ぶりに、それぞれ前年を上回ったが、軽乗用車(同▲11.2%)は23ヵ月連続で前年を下回った。
住宅建設		住宅着工戸数は、前年同月比11.1%増と3ヵ月連続で前年を上回った。利用関係別では、持家(同▲1.8%)、分譲一戸建て(同▲7.7%)は減少したが、分譲マンション(同7.9%増)、貸家(同23.9%増)が増加した。
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比11.3%増と6ヵ月連続で前年を上回った。発注者別では、独立行政法人(同▲27.0%)、東京都(同▲8.7%)は減少したが、国(同4.1%増)、市区町村(同49.3%増)、地方公社(同11.1%増)が増加した。
貿易(東京税関管内)		東京税関管内の輸出額は前年同月比7.7%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。主要地域別では、アメリカ向け(同▲8.5%)は減少したが、EU向け(同3.4%増)、中国向け(同10.5%増)、アジアNIEs向け(同18.3%増)、ASEAN向け(同13.7%増)がいずれも増加した。
設備投資(法人企業)		東京財務事務所「法人企業景気予測調査(10~12月調査)」によると、都内の法人企業(資本金1千万円以上)の28年度下期の設備投資計画額は、全産業が前年同期比11.2%増、製造業が同20.8%増、非製造業が同6.9%増と、いずれも増加見込みとなっている。
企業収益(法人企業)		同上調査によると、都内の法人企業(同上)の28年度下期の経常損益は、全産業が前年同期比▲12.1%、製造業が同▲16.0%、非製造業が同▲10.0%と、いずれも減益見込みとなっている。
労働需給		有効求人倍率(季調値)は2.03倍と前月から0.04ポイント低下した。有効求人倍率の低下は3ヵ月ぶり。先行指標とされる新規求人数は前年同月比3.4%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。南関東の完全失業率は3.3%で、前月から0.1ポイント上昇した。完全失業率の上昇は2ヵ月連続。
企業倒産		企業倒産件数は前年同月比0.6%増と小幅ながら3ヵ月ぶりに前年を上回ったが、負債総額は同▲58.3%と2ヵ月ぶりに前年を下回った。1~11月累計の倒産件数を業種別にみると、全体が前年同期比▲6.3%で、小売業(同12.3%増)、飲食店・宿泊業(同12.2%増)、不動産業(同1.6%増)などが増加し、卸売業(同▲3.5%)、サービス業(同▲8.6%)、情報通信業(同▲10.2%)、建設業(同▲9.3%)、製造業(同▲31.2%)などが減少した。
資金需要(銀行)		銀行の都内向け貸出残高は前年同月比2.8%増と63ヵ月連続で前年を上回った。増加幅は前月と同じだった。

工業生産指数(季調値) ( )は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ( )は前年同月比%	消費者物価指数 ( )は前年同月比%	(一)口メモ
8月 96.2 ( 1.6)	8月 118.0 ( 12.4)	9月 99.7 (▲0.5)	4年連続で増加した冬のボーナス 東京都が集計した都内民間612労組の2016年冬のボーナスの平均妥結額は、777,156円で、平均賃金の2.43ヵ月分、前年と比べて0.17%増加した。伸び率が最も高い業種は、建設業(同10.64%)で、低い業種は、情報通信機械器具製造業(同▲12.14%)であった。
9月 96.1 (▲3.3)	9月 115.7 ( 4.8)	10月 100.3 ( 0.1)	
10月 92.0 (▲5.7)	10月 117.1 ( 8.1)	11月 100.3 ( 0.5)	

\*工業生産指数・在庫指数は2010年平均=100、消費者物価指数は2015年平均=100。\*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨